

(様式第1号)

みなとSDGsパートナー 登録申請書

2023年3月1日

国土交通省港湾局長 殿

みなとSDGsパートナー登録制度実施要綱第4条第1項に基づき、下記のとおり登録を申請します。

1. 概要

企業・団体名	NPO 法人日本ビーチ文化振興協会
所在地	〒104-0033 東京都中央区新川1-1-7 リバーサイド茅場町3階
代表者役職・氏名	代表理事 佐伯 美香
担当者連絡先	電話：03-3552-1171 (担当：清田 真珠美) メール：kiyota@jbeach.jp
ウェブサイトURL	http://www.jbeach.jp/

2. 港湾関係企業等としての事業の概要

<p>2002年にビーチスポーツオリンピック選手や有識者により構成され創立したNPO団体であり、海辺に一年を通じて人々が集い、ふれあい、賑わう「ビーチパーク」の創造を理念に、ビーチを活用した事業を通じて、はだしによる青少年育成、健康向上、次世代に繋ぐ美しい海・海辺の環境保全、防災・減災啓発活動を実施している。</p>

3側面	SDGs達成に向けた重点的な取組	2030年に向けた指標
✓環境 ✓社会 ✓経済	地域資源であるビーチの通年活用を促進する「ビーチライフ」を実施することで、屋外に出るきっかけをつくり、室内のエアコンや電気を使うことによるCO ² 排出の削減につなげている。また、イベント開催に伴う賑わい創出、地域活性化に貢献。	1地域地5ヵ年計画による継続的な活動と新たなイベント開催地10か所を増やし、CO ² 排出削減と地域活性化に努める。
✓環境 ✓社会 □経済	ビーチスポーツアスリートとともに、次世代によりよい海辺環境を継承するための活動「ブルービーチプロジェクト」の一環として、海辺のゴミ拾いを実施。繰り返し使うことのできるオリジナルビーチクリーンバッグによるゴミ拾いを行い、回収したゴミを分別し、再生資源について子どもたちの理解を深める。また、水質浄化の効果が期待できる「竹ひび設置活動」を実施し、泳げる海の水質改善を目指す。	継続的な活動と、全イベント開催地における海辺のゴミ拾いを実施する。
□環境 ✓社会 □経済	ハンディキャップがある方にとって、海・海辺は気軽に行ける場所ではなく、遠い存在にあることから、困っているときにすぐ声をかけられ、手を差し伸べる習慣を育むことを目的とした「心のバリアフリー」に取り組んでいる。活動の一環として、砂浜で車いすやベビーカーが行き来できるよう専用のマットを砂浜に敷いたり、パラリンピック種目である「車いすバスケットボール」「ポッチャ」を取り入れている。また、ハンディキャップのある方にボランティアスタッフとして協力いただき、ともにイベントを盛り上げている。	イベント開催時のマット設置の普及を行い、各ビーチ管理所に常設し、ハンディキャップのある方が参加しやすい環境づくりに取り組む。

(次項へ続く)

SDGs達成に向けた具体的な取組

カテゴリー	チェック項目	具体的な取組 (公的な取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																			
人権・労働	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出身などによる差別を防ぐ教育体制や相談体制を整備し、差別がないことを確認している	日本財団ボランティアサポートセンターと連携し、親子やハンディキャップのある方でも受入れられるよう努めた。					5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3						16.1 16.2 16.7	
	【ハラスメント禁止】 ・セクハラ、マタハラ、パワハラ等のハラスメントを防ぐ、ルール・教育・相談体制を整備している						5.1 5.2 5.5			8.5 8.8								16.1	
	【労働時間】 ・過度な長時間労働の防止に取り組んでいる									8.5 8.8									
	【外国人労働者】 ・外国人労働者に対する差別、人権侵害がないことを確認している				4.4					8.5 8.7 8.8		10.2 10.3							
	【労働安全衛生】 ・作業中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる	イベント開催時の災害発生を想定した、避難誘導や避難場所の事前確認を行い参加者、スタッフの安全確保に努めている。			3					8									
	【メンタルヘルス】 ・労働者のメンタルヘルスを良好に維持できるように対策に取り組んでいる	協力団体と密に連携を取り、情報共有、意見交換を介して負担を取り除いている。			3														
	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材(女性、外国人、障がい者、高齢者等)が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる	ハンディキャップのある方へ困っているときにすぐ声を掛けられ、手を差し伸べる習慣を育む「心のバリアフリー」を実施。活動の一環として、砂浜で車いすやベビーカーが行き来しやすいよう専用のマットを敷いたり、ハンディキャップのある方もボランティアスタッフとして協力いただき、イベントを盛り上げている。					5.1 5.5			8.5		10.2 10.3							
	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している	イベント運営をマニュアル化し、海辺づくりのエキスパートの育成を行っている。				4	5.5			8	9								
	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している	ボランティアスタッフを受入れ、運営サポートをいただいた。					5.5			8.5		10.2 10.3							
	【健康経営】 ・従業員への健康投資による生産性の向上等に取り組んでいる				3					8									
環境	【3Rの推進】 ・事業活動等から発生する廃棄物の管理及び処理を適切に行う等、3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進に取り組んでいる	海辺のゴミ拾いで使用している「オリジナルビーチクリーンバッグ」は、メッシュ地を使用したことで砂が落ち、ゴミだけがバッグに残る仕組み。その場で一度だけ使用するゴミ袋ではなく、繰り返し使用するエコバッグとして活用することができ、また、バッグを持ってビーチへ行く習慣づくりを行っている。										11.6	12.4 12.5	14.1					
	【エネルギー】 ・自社のエネルギー使用量を把握し、エネルギー利用の効率化を進めている								7.3					13					
	【温室効果ガス】 ・自社の温室効果ガス排出量を把握し、排出量の削減を進めている	地域資源である海辺の通年活用を促進する「ビーチライフ」を実施することで、屋外に出るきっかけをつくり、室内のエアコンや電気を使うことによるCO ₂ 排出の削減を行っている。							7.2 7.3				12.4	13.3					

カテゴリー	チェック項目	具体的な取組 (公的な取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																			
14	【有害化学物質】 ・法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の抑制及び適切な使用に取り組んでいる			3.9			6.3					11.6	12.4						
15	【生物多様性】 ・自社活動が生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している	イベント会場内にて、企業が取組んでいる環境啓発活動のブースを出展。環境に配慮した取組みによる生態系の維持を紹介する機会を設けている。					6.6									15			
16	【水の管理】 ・水資源の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に取り組んでいる	イベント会場内にて、企業が取組んでいる環境啓発活動のブースを出展。環境に配慮した取組みによる生態系の維持を紹介する機会を設けている。					6.4 6.6												
17	【環境マネジメントシステム】 ・ISO14001、または同等の環境マネジメント規格を取得している			3.9			6	7				12	13.3	14	15				
18	【環境情報開示】 ・環境の取り組みに関する情報を正しく開示している	当協会公式ホームページ内にある「ブルービーチプロジェクト」ページにて活動を紹介。またイベント会場内では、活動を紹介する看板を設置し、環境保全に対するきっかけづくりを行っている。										12.6							
19	【再生可能エネルギーの利用】 ・再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる							7.2					13						
20	【天然資源の持続的利用】 ・天然資源の持続的利用に配慮した調達に取り組んでいる											12.2	13	14	15				
21	【製品・サービスの安全性】 ・製品・サービスの安全性を確保するための仕組みを構築している			3.9								12.4							
22	【品質保証】 ・品質のよいモノやサービスを提供するための仕組みを構築している									9									
23	【環境配慮】 ・環境に配慮した製品の開発・設計に取り組んでいる	海辺のゴミ拾いで使用している「オリジナルビーチクリーンバッグ」は、メッシュ地を使用したことで砂が落ち、ゴミだけがバッグに残る仕組み。その場で一度だけ使用するゴミ袋ではなく、繰り返し使用するエコバックとして活用することができ、また、バックを持ってビーチへ行く習慣づくりを行っている。					6					12	13	14	15				
24	【社会課題解決】 ・社会課題を解決する製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる	海辺のゴミ拾いで使用している「オリジナルビーチクリーンバッグ」は、メッシュ地を使用したことで砂が落ち、ゴミだけがバッグに残る仕組み。その場で一度だけ使用するゴミ袋ではなく、繰り返し使用するエコバックとして活用することができ、また、バックを持ってビーチへ行く習慣づくりを行っている。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
25	【地域への配慮】 ・自社事業が地域に与える影響を把握し適切に対応している	地域資源である海辺の活用手段を提供し、持続可能な海辺の環境づくりを行っている。				4						9	11	12	14	15		17	
26	【社会貢献活動】 ・寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	イベント開催地において海辺のゴミ拾いを実施し、海辺環境保全に貢献している。				4						11		14	15		17		

SDGs達成に向けた取組及び指標の進捗状況報告書

国土交通省港湾局長 殿

所在地： 東京都中央区新川 1-1-7-3F

名称： NPO 法人日本ビーチ文化振興協会

代表者： 佐伯美香

登録年月日： 令和5年3月29日

みなとSDGsパートナー登録制度実施要綱第7条の規定により、下記のとおり進捗状況を報告します。

3側面	SDGs達成に向けた重点的な取組	2030年に向けた指標	指標の進捗状況
✓環境 ✓社会 ✓経済	地域資源であるビーチの通年活用を促進する「ビーチライフ」を実施することで、屋外に出るきっかけをつくり、室内のエアコンや電気を使うことによるCO ² 排出の削減につなげている。また、イベント開催に伴う賑わい創出、地域活性化に貢献。	1 地域地5カ年計画による継続的な活動と新たなイベント開催地10か所を増やし、CO ² 排出削減と地域活性化に努める。	新規開催地3会場
✓環境 ✓社会 □経済	ビーチスポーツアスリートとともに、次世代によりよい海辺環境を継承するための活動「ブルービーチプロジェクト」の一環として、海辺のゴミ拾いを実施。繰り返し使うことのできるオリジナルビーチクリーンバッグによるゴミ拾いを行い、回収したゴミを分別し、再生資源について子どもたちの理解を深める。また、水質浄化の効果が期待できる「竹ひび設置活動」を実施し、泳げる海の水質改善を目指す。	継続的な活動と、全イベント開催地における海辺のゴミ拾いを実施する。	2023年度12地域にて開催
□環境 ✓社会 □経済	ハンディキャップがある方にとって、海・海辺は気軽に行ける場所ではなく、遠い存在にあることから、困っているときにすぐ声をかけら	イベント開催時のマット設置の普及を行い、各ビーチ管理所に常設し、ハンディキャップ	2023年度4地域のイベント会場にて専用マット設置

<p>れ、手を差しのべる習慣を育むことを目的とした「心のバリアフリー」に取り組んでいる。活動の一環として、砂浜で車いすやベビーカーが行き来できるよう専用のマットを砂浜に敷いたり、パラリンピック種目である「車いすバスケットボール」「ボッチャ」を取り入れている。また、ハンディキャップのある方にボランティアスタッフとして協力いただき、ともにイベントを盛り上げている。</p>	<p>の ある方が参加しやすい 環境づくりに取り組む。</p>	
---	---	--